

♪ 2024年度 **poco a poco** ♪

Nr. 7 2024年7月1日(月)

文責:プファイル・辰巳

夏はどこへ?

やっと夏らしくなり、先週は水泳教室にもぴったりのお天気でした。ところが夏といっても気温の変化が激しいドイツでは、また急に涼しい日もあり、油断できませんね。夏風邪などひかないように気をつけたいものです。夏休みまであと3週間足らず。元気に過ごしましょう!



音楽こぼれ話 <生誕200年 Bedrich Smetana>

1824年生まれのチェコの作曲家、スメタナ。フリードリッヒ・スメタナと呼ばれることもありますが、チェコ語では名前がベドルジハと発音するようです。子音の多いチェコ語の発音は、難しそうですね。

さて、そのベドルジハ・スメタナの作品と言えば、やはり「モルダウの流れ」を思い浮かべる方が多いと思います。ただし、このモルダウはチェコ語ではないので、現在では中学3年生の鑑賞教材として扱う時も、「ブルタバ」というチェコ語で学習します。「ブルタバ」はチェコを流れる川の名前で、源流から流れ出し、森や村を流れる様子やその周囲の様子を、スメタナがみごとにオーケストレーションで表現した曲です。「ブルタバ」以外の5曲も合わせて、6曲から構成される連作交響詩「我が祖国」の第2曲が「ブルタバ」なのですが、この部分だけが突出して有名になり、最も頻繁に今日でも演奏されています。

中学3年生のみなさんとも一緒に学習したのですが、スメタナが音楽家として活動していた頃(19世紀半ば)のチェコは、オーストリア帝国の強い支配を受けていました。ハンガリーのブダペストやチェコのプラハの街並みが、オーストリアのウィーンにどこかしら似ているのは、帝国の支配を受けていたためと思われます。

さらに、チェコの人々は母国語さえも話すことを禁じられ、ドイツ語での生活を強いられていたそうです。そんな中、スメタナは一時スウェーデンに移住し、音楽教師として生計を立てた時期もありました。規模の大きなオーケストラ音楽の作曲を始めたのもこの頃だそうです。

1860年代に入ると、オーストリア帝国のチェコへの政治姿勢が変化し始め、自主主義的な方向へと移行し始めたので、スメタナもプラハに戻る決心をしたそうです。

プラハに戻ってからのスメタナは、新たにチェコ語によるオペラを作曲し始めました。1866年に作曲されたオペラ「売られた花嫁」は大人気を得ました。今日でも「ブルタバ」と並んで、スメタナの代表作に数えられています。

しかし著名になれば、向かい風も強くなります。指揮者としてプラハ歌劇場で活躍していたスメタナに対する批判も年々強くなり、それが元でスメタナの創作意欲も減退し、健康状態も悪化しました。歌劇場の指揮者は1874年末には、辞任してしまうのですが、その後スメタナはベートーヴェンと同じく、完全に聴覚を失ってしまいます。

失聴した後、スメタナは逆に創作意欲を奮い立たせ、残りの人生を作曲に集中させます。スメタナが祖国への思いを込めた連作交響詩「我が祖国」という大曲を作曲したのが1874年から79年といわれているので、この時期に当たりますね。

1882年11月に初演された「我が祖国」はチェコの音楽愛好家たちからも絶賛され、中でも第2曲「ブルタバ」はスメタナの管弦楽曲の中でも最も有名になり、国際的にも高い人気を誇る作品になりました。

ちなみにプラハを流れるブルタバ川は、その後北ドイツの国際河川エルベ川に合流し、最終的には北海に流れ込むことになります。

また、スメタナ健康状態の悪化は、その後精神の病にまで及び、1884年5月、60歳でその生涯を閉じました。今年がスメタナの生誕200周年であり、没後140年でもあります。

ほんのちよっとだけ 演奏会情報

~フランクフルト・オペラ劇場 7月の演目より~

ヴェルディ作曲オペラ「オテロ」 上演中

7月4日(木) 19時30分から

7日(日) 18時から

10日(水) 19時30分から

12日(金) 19時30分から (シーズン最終回)

コンサートホールやオペラ劇場もこの後夏休みに入ります。夏の間は野外オペラや音楽祭をお楽しみください。